

## まえがき

私が執筆しました「妊勝！」から数カ月後、出版社より第2弾の執筆依頼を再度受けた次第です。

正直なところ初版の作品は妊活本としてソフトな解説ですが、マニュアルとして手に取り実行していただければ妊娠率は確実に上がっていくと信じています。

ただ、私が日々の不妊患者さんの施術の中で「もう少し頑張っていたら!」「もっと妊活について学ぶことや行動がしっかりしていたら!」と治療家である私自身が悔しい思いがこみ上げてくることもしばしばあるわけです。

確かに不妊患者さんたちは、仕事と不妊治療のかけ持ち年齢を気にしつつ、いつ授かるかにさいなまされる日々を送り、経済的な不安、パートナーとの協力、国は少子化に重い腰を上げない。そんな問題が山積する中での妊活は女性にとって過酷な闘いであることは間違いありま

せん。しかし、妊活は、妊娠して赤ちゃんが産まれたときに結果として「勝った！」ことになりません。

戊辰戦争のことわざに「勝てば官軍」があります。これは、どんな方法を使っても勝ったほうが正論であると話しています。

私は数多の不妊患者さんを診て施術して感じることは壁にぶつかるとできない理由を並べて赤ちゃんをあきらめてしまう患者さんがいることです。一方、年齢や卵の質なんか関係ない、かかる治療費も人生のほんの数年間のこと、夢に向かい消費する患者さん、圧倒的に後者の患者さんが妊娠率は高く赤ちゃんを抱えています。

理由はどうあれ妊娠し出産、赤ちゃんを胸に抱いた方が勝った官軍なのです。こういう患者さんは、過去の闘い抜いた苦しい妊活期間を気にしません。それは今胸に抱いている宝物がっらい過去をすべて払拭させてくれるからなのです。私自身は、プロの鍼灸師さんに講義する機会があります。

そんな講義の中での話ですが鍼灸師はよく肩こりの施術をします。施術を受けた患者さんは「いや〜先生ほぐれてよくなりましたよ〜」と帰っていきます。

しかし、1週間も経つとまた肩の調子が悪くなりましたと来院することが多いこと、私は肩こりの施術は永遠に治らないことから慰安施術にはかならないと講義の中でお話ししています。

そこで、先ほどの話から不妊の鍼灸は妊娠させるかさせないかの勝負であるから妊娠させなければ私たちの不妊鍼灸師の負けで官軍にはなれないということになると説明しています。10名の不妊患者さんが来院したら最低でも7勝3敗の成績を目標に施術することを話しています。そのようなことから、不妊に関わる鍼灸施術は対不妊患者さんとのガチンコ勝負と言っても過言ではないという思いで施術を続けているわけです。

今日本の直面している最大の問題は少子高齢化です。子どもが少ないということは人口が減少し生産力がダウンし高齢者が増加し続け、大都市以外の地域では過疎化が当たり前になります。AI化が進むにつれ会社ではリストラも顕著になり格差社会になることが目に見えています。高齢化を止めることはできません。しかし少子化を止めることはできるのに高齢者には手

厚く、不妊を始め子どもを増やす策は極めて手薄い現実があります。

国は将来の社会保障は大丈夫！　と言っていますが、どの視点から見ても大丈夫なわけがないのです。

そんな時代に迷わず挑戦し、すべてを傾注し妊活に勤しむ人こそ早く子宝に恵まれることが重要なのです。

不妊で悩んでいるとき、困っているとき、そんなときの支えや頼みの綱になるため不妊鍼灸師がいるのです。

前書でも書き記しましたが、私は少しでも多くの赤ちゃんが産まれ、その赤ちゃんがカップルに育まれ物心がつくころから、勉強でもスポーツでもなんでもいいのでたくさんいいこと少しの悪いことを学んで日本のみならず世界に羽ばたいてほしい、そういう世の中を常に夢見ています。私はどんなときも赤ちゃんを抱いているご夫婦や公園で遊んでいる子どもたちを見かけると心の中で「がんばれ〜くじけるな〜いろいろなことを学べ〜」と念を送るようにしています。たくさん赤ちゃんが産まれるよう願ってやみません。

一成堂鍼灸院 院長 金子弘喜